

## あったか介護ありがとうメッセージ メッセージ部門 入選作品

### **最優秀賞** 小宮俊昭さん 彦根市 68歳

笑顔に感謝。炊事、洗濯、そうじ一通り何でもこなせる様になった。介護のお陰である。体は疲れるが毎日が楽しい。妻が亡くなり思案にくれていた矢先、母が認知症となり実家から引き取った。変わった環境に馴染めず昼夜格闘、

そんなある日、心と気が付いた。母がにこにこ笑っている。そして何をしてもらってもありがとう。私も真似てみた。不思議と心が軽くなった。どんな事もすぐ忘れる。息子の私でさえ忘れる。なのに笑顔とありがとうは決して忘れない。それからはお互い笑顔の日々になった。そして私の人生が広がった。もの忘れになっても心は生きている。どんな些細なことにも気遣ってくれる。いつしか支える側が支えられている日々。九十五才残り少ない人生を母らしく生きられる様にそして私が幸せをもらい感謝のことばを伝える毎日、母の笑顔が返ってくる。

### **優秀賞** 梅村榮子さん 守山市 68歳

母の介護は米寿を過ぎた頃より始まり丁度十年間、進行する認知症と身体の弱りは段階を経てやってきました。置忘れで家族を泥棒扱いされた日々や物忘れがひどくなってからは、出掛けると自宅に帰って来れない恐怖心から一歩も外に出なくなりました。昼間留守番となる母は、たえず電話を掛けたりして迷惑をかけました。地域民生委員さんのすすめで近くの介護施設へ通所致しました。週二度の通所で仲間との楽しみを覚え、ケアを受けたら週四日迄通うようになりました。スタッフの皆様に身の廻りすべてに手の届く優しい介護に家族はどれだけ救われた事でしょう感謝いっぱいです。日報の一筆一筆に状態が訳され、いち早く対処して下さったお陰で九十九才迄生きる楽しみを頂きました。その日も車椅子でケアに出掛けました。「行ってきます。」と小さく手を振った母は帰らぬ人となりました。最後の日迄通所先の皆さんと過ごすことが出来た母は倖せだったと思います。私にあふれ出す涙は今迄の母への想いと同時にホームの方々への感謝ばかりです。相談相手のいない私はケアして下さる職員様が頼みの綱でしたから本当に嬉しく思っていました。

今の福祉制度に介護時間の軽減が出来て接する者のすべてに利用する者、される者が常に近い位置で新しい気持ちで接することが出来ました。介護は日々の積み重ねで見えてくるものが一杯あります。その都度優しい言葉と有難さが身にあふれました。安心して仕事に従事も出来たこと心より感謝すると共に厚く御礼申し上げます。・・・・・・いずれ私もお世話になります・・・・・・  
スタッフの皆様ありがとうございました。

### **優秀賞** 川村静江さん 彦根市 86歳

いつも、オムツかえてもらっている時、心の中で、「ありがとう、ありがとう。」とゆうてるの、あんたには伝わたらへんやろう。下痢っぽいんことおしっこが一緒になってオムツの間からもれ出し、オムツあけたら、シャツ、パジャマ、オムツ、ベット、布団、体、足まで、うんこだらけになった時、「わぁ～。うんこの洪水や～」と笑顔でオムツかえてくれてありがとう。

ベットで寝ている時、たまたま「レ・ド・レ・ミ・ソ・ミ・レー。」と口ずさんだら、早速、この歳になって始めてピアノ弾かしてくれて、毎日毎日ピアノのレッスンしてくれてありがとう。一曲弾くと拍手してくれ、心豊かになり、とてもうれしいひとときです。2～3週間の命やったんやね。あとからわかったわ。どんなことがあっても、命はあきらめたらあかんね。これからも、二人三脚で夢に向かって頑張りましょう。涙が止まることなくボロボロほほをつたいます。頭を深くさげています。ありがとう、ありがとう啓子さん。なみだ。。。。。。。。。

### 入賞 階堂幸子さん 日野町 86歳

夫85歳、私86歳の老々介護の老夫婦です。夫は四年前風呂場で脳梗塞で倒れ、車椅子生活を送っています。昭和ひとけた生まれの特徴でしょうか。

我慢強く痛さに耐えたことで発見が遅れ、半身麻痺が残りました。当所は「早く治して田をする」とリハビリに励みましたが、最近ようやく病気を受け入れたようです。子ども達は自立し離れて暮らしています。今はご近所の方が毎日「元気か」、「大丈夫か」など絶えず声をかけてくれています。雨漏れがあれば、隣に住む民生委員さんがかけつけて屋根に登り直してくださり、病気の時は近所の方が送迎してくださいます。ご近所の方々のこうした見守りや支えがあってこそこの私達です。そこに金銭的な繋がりや職務としての役割ではない、温かな地域の繋がりが、また今存在する事がありがたく思います。この年になり、幸せとは、こうした人々との絆のことを示すのだと、実感する日々です。「お互い様やで」が心にしみる老夫婦です。

### 入賞 ペンネーム：はくなまたた 大津市 28歳

最愛の人が、少しずつ自分のことを忘れていくと知ったなら、あなたはどこまで添い遂げられますか？私は、父の若年性アルツハイマーという病気を受け入れることができず、家を飛び出しました。家の中では、近寄ることも怖いくらい厳格のある父、一步外に出ると、ムードメーカーでみんなに慕われ、困っている人には自分を犠牲にしても手を差し伸べる正義感ある人だった父。家族を一番に考えてくれていた父の壊れていく姿をどうしても受け止められなかった私。それでも母は、そんな状態の父を、懸命に支えてきました。計り知れないほど辛い事ばかりだったろうに、この10年間、ずっと側で支えています。けれど母は、なるべく施設に頼らず、最後まで自分の力で支えたい、と今でも言い続けています。深い愛情で繋がっている2人は、今では私の理想の夫婦像です。

私は、少しずつ状況を受け入れ、今、母と一緒に父の看病をしています。おかん、私はやっとあなたが言う幸せを理解できるようになったよ。これからも家族皆で一緒に小さな幸せを積み重ねていこうね。ごめんなさい。そしてありがとう。

### 入賞 久保和友さん 草津市 75歳

老々介護。私は勤めていた会社を55歳で定年退職した。まだ働けるのに規則というものは厳しいものと知った。すこし早いが老後はゆっくりとしようと思った。人間として生まれた。

しかし一回だけのこの世は招待である。そんな楽しみもあったが、認知症の母が待っていた。夜中に鍵を明けて家を出て行く。何処へ行ったかわからないがまだ田園風景の残っている町を私は車で探した。母は若い時から俳句を作っていたからよく行く琵琶湖が見える公園だろうと思った。でも私の家から30分も歩かなければならない。行くと母はいた。手帳に何か書いている。月が美しい。私は母を見つけて帰ろうと言った。「まだ俳句が出来ない」と泣き出した。携帯電話で歩いて他を探している妻や長男を安心させてから私も一緒に坐った。その母も昨年なくなった。済んでみれば介護するほうも介護されるほうも苦しい。それは親子の絆だと思う。母の俳句。白い往還に一宿残す女郎花

## **入賞** ペンネーム：千波一之進 大阪府堺市（大津市内勤務）58 歳

肉親の介護は必ずやってくるものです。私の場合は実の親ではなく、家内の母親の介護でした。まだ意識がはっきりしている時は異性の私や当時小学校低学年の一人息子の世話になるのを嫌がりほぼ毎日通いでお世話になっていたヘルパーさん頼みでした。都合3名の方々がローテーションで我が家に来られましたが、皆さん良く出来た方々ばかりで家内も含めて共働きの我が家ではヘルパーさんに足を向けて寝られないといつも話しておりました。肉親の介護というどうしてもその家の主婦が中心になりがちですが、我が家の場合は介護年数も長かったため、息子も小学生から中学生に成長し、元気な時は何があっても息子の味方だった祖母が弱っていく様を目の当りにし、排便や吐しゃ物があった時にでも若い男の子には珍しく嫌がらずに世話をするなど、最後の入院全介護の時期まで含めて家族3人で世話をした思いがあります。勿論実の娘である家内の心身共の苦勞が一番だったと思いますが、ただ3人で話あった事は誰か1人だけに介護の苦勞が偏ればその人も疲れ切って潰れてしまうので出来る事は分担して助け合おうという事でした。

また何でもネガティブに考えるのではなく、闘病中も本人も含めてなるべくポジティブ志向で生活するという事でした。なので家族旅行にも全介護で入院するまでは車に車椅子と紙オムツを満載して色々な所へ出掛けました。記念写真には必ず家族の誰かが祖母の車椅子を押している写真が有ります。病院に入院してからも看護師さんとヘルパーさん方に大変お世話になりました。国家制度を活用してヘルパーさん達にお世話になっている訳ですが、場合によっては人の終焉までお世話をするこの仕事は中々ビジネスライフに出来るものではありません。最後にこの企画のタイトル通り、「あったか介護を有難う御座いました」。というメッセージを送らせて頂きます。

## **入賞** 福田恵子さん 草津市 41 歳

私の父はとてもお風呂好きでした。ALS を発症しましたが家族で協力しながらお風呂に入れていました。しかし症状が進むにつれて母娘2人で入浴させるには限界が来て、ケアマネさんに訪問入浴を紹介してもらいました。その当日にどうしても入浴したいと言い張り、夕方遅くにも関わらず来てもらい入浴させてもらいました。だいたい夕方に来てもらうのが多かったのですが、1日に何件も回っていて、疲れているだろうに嫌な顔一つもせず、父のことを気遣ってくださり、又、私たちにも楽しい話をして下さいました。いろんな人が担当して下さいましたがどの方もとても誠意ある対応でいろんなことを話して下さり一歩も歩けなくなった父は外部の情報が入り退屈な時間が少し減り楽しかったようです。土曜日や祝日でも来て下さり父も週2回の訪問入浴を「お風呂屋さん」と言ってとても楽しみにしておりました。いつも父の希望を聞いてくださり、痒いところなどゴシゴシしてもらいとても気持ちよさそうでした。入浴後は、どれだけ父が喜んでいたら計り知れません。

その父も5年前に他界しましたが訪問入浴というサービスがありとてもありがたかったです。今もその車を見る度、父の嬉しそうな話し声や「きもちいい」と言っている声が思い出されます。その節はありがとうございました。「お風呂屋さん」これからたくさんの人を気持ちよくしてあげて下さい。

あったか介護ありがとうメッセージ あったか介護写真部門  
入選作品

**最優秀賞**

ペンネーム：たいじゅくん 彦根市 39歳



**優秀賞**

ペンネーム：ふじさん 彦根市 71歳



優秀賞

水本弘光さん 東近江市 53歳



あったか介護ありがとうメッセージ 介護の心・ハート写真部門  
入選作品

優秀賞

栗林悦子さん 甲賀市 52歳

